

日本災害情報学会研究発表大会予稿集の投稿論文書式 (原稿フォーマット)

災害太郎¹・○情報花子²・Disaster INFORMATION²

¹災害情報大学教授 工学部災害情報学科

²災害情報株式会社 情報システム開発部

1. はじめに

この文書は日本災害情報学会研究発表大会予稿集の投稿原稿のフォーマットにしたがって書かれています。できるだけ、このフォーマットを使って原稿を作成してください。

2. ページ数

原稿は2枚以内です。3枚目以降は掲載しません。必ずPDFが2枚になっているか確認して下さい。

3. 提出書類の様式

原稿は、A4版の用紙設定で、25字×50行の2段組の幅は2.1字です。基本マージンは、左上が20mm、下が25mmです。基本フォントはMS明朝またはTimes New Romanの10ptです。

(1) 1ページ目

1ページ目は、題目、著者、所属を記載し、その下に本文を記載します。

a) 題目

題目は、MSゴシックの20ptで記載して下さい。一行に収まらない場合は、適宜改行して下さい。

b) 著者名(および所属・連絡先)

題名の下には、基本フォントにて2行の空白行を設け、その下に、著者名をMS明朝またはTimes New Romanの12ptにて記載して下さい。著者が複数名の場合は著者の間に「・」を挿入して下さい。

著者名の下には、基本フォントにて1行の空白行を設け、その下に基本フォントにて著者の所属を記載して下さい。著者と所属は肩付き数字(上付数字)で対応づけて下さい。

c) 本文

著者名の下には、基本フォントにて2行の空白行を設け、その下から、基本マージン、基本フォント、2段組(1段25文字)にて本文を記載して下さい。

(2) 2ページ目

2ページ目では、1ページ目の本文部分と同じく、基本マージン、基本フォントにて本文を作成します。

謝辞・付録・注・参考文献などがある場合にそれらを本文の後に記載します。2ページ目の1段目と2段目の末尾の長さがほぼ揃うように調整して下さい。

a) 見出し(見出しが1行以上に長くなる時はこの例のようにインデントして折りがえす)

見出しのレベルは3段階までとします。

第1レベルの見出し(章)は、MSゴシックの10ptにて、「1. はじめに」などのように、数字(全角)、ピリオド(全角)に続けて見出しを書きます。第1レベルの見出しの上には、基本フォントにて1行ずつの空白行を設けます。

第2レベルの見出し(節)は、MSゴシックの10ptにて、「(1) 見出し」などのように、数字(全角)を括弧(全角)で挟み、その続きに第2レベルの見出しを書きます。第2レベルの見出しの上下には、空白行を設けないで下さい。

第3レベルの見出し(項)は、MSゴシックの10ptにて、「c) 見出し」のように片括弧(全角)付きのアルファベット(半角小文字)を書き、その続きに第3レベルの見出しを書きます。第3レベルの見出しの上下には、空白行を設けないで下さい。なお、第3レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

b) 図表

図表は余白にはみ出さないようにして下さい。できるだけ2ページ上部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は「2段ぶち抜き」または「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に文字は配置しないで下さい。図表と文章本体との間には、基本フォントにて1行程度の空白行を設けて下さい。図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。

図の見出しは図の下に、表の見出しは表の上に、それぞれセンタリングして配置して下さい。図表の見出しは9ptにて表記します。「図-1 見出し」のように、図表番号をMSゴシックで表記し、全角スペースを挟んで見出しをMS明朝もしくはTimes New Romanにて表記します。見出しが1行を越える場合はインデント

して下さい。本文中にて図表番号を参照する際には図-1のように、図表番号をMSゴシックにして下さい。

他者の図版を転用する際は、著作権者の了解を得ることなく転用してはなりません。

c) 数式

式や数学記号は、なるべく数式用のフォントを使用して作成してください。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

式や数学記号は、例えば

$$L = \sum_{i=1}^n (y_i - \hat{y}_i)^2 \quad (1a)$$

のように本文と独立している場合、あるいは、 \hat{a} のように文章の中に出てくる場合でも、数式用のフォントを用いて作成します。数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

d) 注

注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には本文末尾に置いて下さい。

注は、本文中の該当箇所の右肩に上付き文字で1)から順に番号を打ち、注自体は本文の後にまとめて記載して下さい^{1), 2)}。

e) 参考文献

本文や注などにおいて参考文献を挙示する際は、著者名(発行年: ページ数)、または、(著者名 発行年: ページ数)とします。

本文末尾に、参考文献をまとめて列挙します。その

際、著者名、発行年、題名、出版社(欧文の場合はその前に出版社所在地 都市名を併記)の順に記載して下さい。欧文の書名はイタリック体にして下さい。

ホームページを参照する場合は、URLと参照年月日を明記して下さい。

謝辞:「謝辞」は本文の後に置いて下さい。謝辞の見出しとコロンをMSゴシックの10ptで書き、その直後から基本フォントにて謝辞の文章を書いて下さい。

補注

- 1) 本文中の該当箇所の右肩に上付き文字で1)から順に番号を打ち、注の内容はここにまとめて記載して下さい。
- 2) 注の見出しはMSゴシックの10ptです。注の内容はMS明朝もしくはTimes New Romanの9ptです。
- 3) 参考文献を挙げる際は、MS明朝もしくはTimes New Romanの9ptにて、下記のようにインデントして下さい。

参考文献

土田建次・木村一(1994), 版下原稿スタイルフォーマットの作成について, 土木学会論文集, No.333/II-99.

Mileti, D.S., 1999, *Disasters by Design: a reassessment of natural hazards in the United States*, Washington, D.C.: Joseph Henry Press.

日本災害情報学会ホームページ(参照年月日: 2002.11.28), <http://www.jasdis.gr.jp/>.